

学校関係者による評価： 当園知的教材研究、指導講師（平田匡邦先生）による評価

保育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・丈夫な体と豊かな心を持つ子どもに ・素直で、思いやりのある子どもに ・遊びも仕事も学ぶことも好きな子どもに ・自然や美しいものに感動できる子どもに
------	---

幼稚園の教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園がこれから担う役割について検討する。

重点項目	具体的な取り組み	自己評価と課題	ご自由にご意見をお書きください。
幼稚園教育要領を理解し、教育課程の編成と実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に適した知的発達を促す環境の設定の工夫とカリキュラムの見直し ・十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうという意欲を育てる活動内容の見直し 	<p>B：知的発達については基本の目標はほぼ達成したものの、子どものやる気と意欲を引き出すためのさらなる工夫が課題となった。鉄棒の増設やサーキットを取り入れることで、子どもたちが楽しんで活動に取り組んでいた。より明確なねらいを把握し、効果的な援助をすることが課題である。子どもの能力差、心理面にも気を配り、適切な目標を設定することも課題となった。</p>	<p>知的発達を促す保育においては、知る喜びやできるようになった喜び、達成感が子どもたちの表情からも常に感じます。無理なく子どもたちのレベルアップが全年ではかられています。今後は、知育・体育の両面でこれまでの経験を活かし、今の状況に対し「こんなことをしたらどうだろう」という、積極的な保育の試行錯誤が展開されることを希望します。</p>
保育の在り方、子どもへの対応の仕方の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが互いにかかわりを深め、仲間とともに楽しむ意欲を引き出し、自主性を育てるために、子どもの視点で多面的に考慮しながら新たなアイデアを見つけ、実践する 	<p>B：子どもの少しの変化を見逃さず、子どもへの励まし、次の環境設定など臨機応変に対応することで、子どもに生き生きとした表情がでてきた。課題は保育者としての話し方、言葉づかい、態度を園内外に関わらず、適切にするよう心がける事である。</p>	<p>子どもたちみんなで伸びていこうという機運が、どのクラスでも醸成されています。また、できない子には手助けしてあげるという場面も随所にみられ、微笑ましく感じます。全体・個別のタイムリーで適切な声かけの工夫をしていただきたいと思います。</p>
保護者との連携、信頼関係、子育て支援の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・園だより、クラス便りの発行 ・HPに日々の保育の様子を掲載 ・保育参観 個人懇談 保護者役員会の実施 ・未就園児教室 保育体験 保護者アンケートの実施 	<p>B：担任と保護者の情報交換について、保護者によってむらがあるので、どの保護者ともうまく情報交換ができ、連携、協力しあえるようにすることが課題である。</p>	<p>子どもの情報交換を職員間でより活発にし、担任以外でも保護者に対応できるよう、一人の園児であっても全員でお預かりしている体制作りを推進して下さい。</p>

<p>安全管理と施設設備の点検、補修、管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災避難訓練の実施 ・不審者侵入避難訓練 ・警察と連携した防犯教室 ・消防署と連携した防火教室、花火指導 ・空調機器の入れ替え ・遊具施設や危険箇所、故障のすみやかな補修 	<p>B：職員のみ、また子どもと一緒に不審者侵入の避難訓練を行い、いろいろな反省点が見つかった。今後も他に考えられる状況設定で続け、各役割をきちんと果たせるよう訓練をする必要がある。</p>	<p>これまで実施してきた安全管理はもとより、最近の自然災害や人為的事故等の事例を職員間で共有し、不測の事態にも迅速に対応できるシステムと訓練が必要と思います。</p>
<p>子どもの健康と安全への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時の視診 ・生活習慣の確立 ・内科・眼科・耳鼻科・歯科検診と身体測定の実施 ・体調が悪化したときの対処の徹底 ・危険の予測と回避の徹底 ・保育環境の日々の清掃、衛生管理、整理整頓 	<p>A：日々変わる子どもの様子を細かく観察し、よりきめ細かい配慮が必要であるが、ほぼ達成できている。</p>	<p>教室内、廊下やホール、園庭等常に整理整頓が行き届き、保育の快適な空間が保たれています。 気候変動による流行性の病気が多発することが想定されますので、子どもの体長変化等の観察により留意して下さい。</p>

今後取り組むべき課題

- ・子どもたちが互いにかかわりを深め、仲間とともに楽しむ意欲を引き出し、自主性を育てるために、保育者ひとりひとりが幼児理解を深めるための努力、考察をするという意識の向上をめざす
- ・十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうという意欲を育てると同時に、適切な目標設定と効果的な援助、指導をすること
- ・保護者との情報交換をより徹底し、協力を得る事で子どもへの理解を深め、各家庭からの信頼を得ること

上記の今後取り組むべき課題についてのご意見、本園に関するご感想をお書きください。

- ・子どもの状況や変化を見逃さず、その時に得たものから「こんなことをしてみたらどうだろう？」という試行錯誤の保育展開の強化を望みます。
- ・体を動かすサーキットや鉄棒等の保育メニューでは、常に子どもたちの気持ちを推測しながら、目標に向かっての励ましや適切な技術指導をお願いします。
- ・保護者対応に関しては、職員みんなで一人ひとりの子どもを預かっているという仕組み作り、どのような情報交換が保護者にとって望ましいのか職員間で十分に話し合い徹底的に実践して下さい。